

メイド システム

Neo!

-Level-

8

illust : miike



メイド
システム

Ma id
e
S y s t e m
o
!

Level. 8

真実の追求は、

誰かが以前に信じていた全ての

“真実”の疑いから始まる。

フリードリヒ・ニーチェ

はじめに

まずは、あなたにこの本まで読んでもらう必要があります。

シリーズの最初にメイドシステムの奇襲をクローズアップし、基本や対策、**心を動かす文言**を並べて『**真実のゾーン!**』をつくりました。

そして、『エボリューション!』では相振り飛車の指し方を紹介し、居飛車、振り飛車、幅広く対応できる「**総合戦法**」であることを強調しました。すでに多くの方がメイドシステムを認知されたと思います。

では、あなたはメイドシステムを使いこなせていますか？
答えが「ノー」なら、あなたにやっとな必要な本が訪れたことを約束します。

答えが「イエス」、つまりそこそこ実戦で勝てたという人にも、

この本の手法を知ること、より充実した成果が得られる手助けとなるはずで

なぜなら、ほとんどの人がメイドシステムの指し方をまだ知らないからです。

例えば、なんとなく飛車先を突き、なんとなく銀を進める。

私もこの本を書くまでは、場当たりのでした。

どういう駒組みをして、どんなふう仕掛けていけばいいのか。

本書でお伝えしたいのは、

メイドシステムを正しくあつかい、効率良く勝つための方法論です。

私が研究のためにかけた実戦は700局以上にのぼりますが、

たんに実戦を積んだだけでは見えないテクニクも散りばめています。

あなたがいたずらに時間を消耗し、回り道をしないために本書があります。

すでに知っていることが書かれているかもしれません。

しかし、まだ知らない世界や、**間違っただ思い込み**が必ず見つかるでしょう。

私は、ここに「**ネオ**」**新しい**」という出発点をつくりました。

出発点ではありませんが、

このあと熱心な追跡者が出てこない限り、本書と過去作があれば、少なくともあと10年くらいは道しるべになるのではないかと自負しています。

過去作からここまで読まれた人は自分のものにできるまであと一歩。

本書から読まれて「メイドシステムってなに？」と思われた人もすぐ追いつけます。私の本は一晚あれば読破できるからです。

みなさんがメイドシステムマスターとなってくれることを、心から願っています。

レベル 8

第2章

41

飛車先保留△3三角型

第1章

27

飛車先交換型

序章

9

基本図まで

4

はじめに

第4章

80

おわりに・絵あとがき

78

メイドシステムの
8つの心得

67

飛車先保留△4一玉型

第3章

55

飛車先保留△3三銀型

序章

基本図まで



【第1図は▲7九角まで】



■ 初手からの指手

▲ 7八銀 △ 3四歩 ▲ 7九角 (第1図)

メイドシステムは、YouTuberの将棋
 メイドゆいさんが編み出した戦法です。

過去の著書で対策を書いているように、
 基本的に私はこの戦法に否定的な立場でした。

しかし、振り返ってみると、「咎めたい」と
 思って始めた研究が、正反対の研究になってい
 たのです。今の私にとってメイドシステムは強
 烈なアタッカーになっています。

なぜ、そうなったのか。

理由ははっきりしています。

■ 第1図以下の指手
 □ 8四歩
 ▲ 4八銀
 (第2図)



【第2図は▲4八銀まで】

大きな要素が「ソフト研究の回避」です。

時代が進むにつれて、スマホがあれば誰でもいつでも高度な研究ができるようになりました。

2020年、スマホの普及率は82%を超えています。

ある調査では、72%の人がトイレでもスマホをしているというデータもあります。

現代ではソフトで研究するのが常識になり、もはや定跡のベースになっています。

その状況下で、メイドシステムの特性、**未知に持ち込める**、**相手の研究にハマらない**、**が大きく影響しているのです。**

■ 第2図以下の指手

□ 8五歩 ▲ 5六歩 (基本図)

実戦で使い続けるうちに、駒組みの優先手順も明確になってきました。

【再掲第2図は▲4八銀まで】



【参考A図は□4四角まで】



嬉野流ではおなじみ。
この手筋の解決策として「新嬉野流」が出ている。

メイドシステムはすぐに飛車先を伸ばすより、
▲4八銀(第2図) ▲5六歩(左ページ基本図)
を急いだ方が良いことがわかったのです。
具体的には、参考A図 □4四角から □2六飛
の筋がイヤだからです。

【基本図は▲5六歩まで】



とにかく、最初は低く構える。
これがメイドシステムの新たな基本図です。

本書は、基本図から、

- 第1章 飛車先交換型
- 第2章 飛車先保留△3三角型
- 第3章 飛車先保留△3三銀型
- 第4章 飛車先保留△4一玉型

の4章構成に分類しました。

棒銀もあるんじゃないの？

そもそも中飛車にされたらどうするの？

そんな疑問が脳裏をよぎった人もいるかもしれません。

安心してください。この序章の続きは、「棒銀対策」「中飛車対策」に着目します。

■ 基本図以下の指手

□ 7二銀 (第3図)

実際、棒銀は有効になるのでしょうか？

【基本図は▲5六歩まで】



【第3図は□7二銀まで】



結論から言うと、

メイドシステムは棒銀に強い耐性があります。

ただ、過去作で述べた「相棒銀」はネオの駒組みでは発動できません。

本書では、ネオに合った新対策を提唱します。

【第4図は▲2六歩まで】



後手が角道を開けていないときは、
▲7六歩→▲7七銀の矢倉を選ぶのが正解。

【第5図は▲6六銀まで】



△6六同角▲同歩△7五銀…!
と襲う手は、▲2五歩で無理攻め。

- 第3図以下の指手
- ▲ 5七銀
- △ 8四銀
- ▲ 6六銀
- ▲ 2六歩
- △ 8三銀
- ▲ 2六歩
- (第5図)
- (第4図)

後手の棒銀に対して、▲6六銀（第5図）と左に銀を繰り出します。
すでにピンときた人もいるかもしれませんが、これは、「嬉野流」の棒銀対策を真似た形で、7五へ銀を進めていく受けの手法です。

■ 第5図以下の指手

△ 9五銀 ▲ 2五歩 (第6図)

ただし、ここにもひとつ優先手順があります。

△ 9五銀にいきなり ▲ 7五銀と上がると、

△ 8六歩から交換。これでは意味がありません。

第6図 ▲ 2五歩と伸ばす必要があります。

これは何を意味するのと言うと、

「効率的に角を5七へ持っていく」というもの。

この先の手順で具体的にわかります。

ちなみに、第6図で2筋を放置して△ 8六歩

と攻めるのは危険です。

▲ 同歩 △ 同銀 ▲ 2四歩 △ 同歩 ▲ 同角で参考B図。

以下△ 6二玉 ▲ 2三歩 △ 4四角と逃げると、

6六の銀が働いて ▲ 5五銀が生じます。

【再掲第5図は▲6六銀まで】



【第6図は▲2五歩まで】



【参考B図は▲2四同角まで】



【第7図は▲2四同角まで】



【第8図は▲7五銀まで】



【参考C図は▲8三步まで】



■ 第6図以下の指手

○ 3 二金 ▲ 2 四歩 ○ 同 歩 ▲ 同 角

(第7図)

○ 4 一玉 ▲ 5 七角 ○ 2 三步 ▲ 7 五銀

(第8図)

第7図は機敏な王手。手番を取るために○3
三金は、▲同角成○同桂▲2三步で真っ青です。

さらには、第8図で黙っていると▲9六歩の銀
取り。とは言っても、ここまで進んでしまうと、
もはや後手が幸せになる手はありません。

第8図になると受けの全体像が見えてきます。
構わず○8六歩なら、▲同歩○同銀▲8三步
(参考C図)から「連打の歩」がある理由で、
後手は飛車先が突けなくなっています。

■ 第8図以下の指手
 □ 9四歩
 ▲ 7九金
 (第9図)

【再掲第8図は▲7五銀まで】



□7四歩で追い返すのは▲4六角。
 「しまった」では済まない存在になってくる。

【第9図は▲7九金まで】



□ 9四歩は銀と歩を刺し違える非常手段。
 その手にした歩は□ 8六歩↪ □ 8八歩の攻めを生みます。
 先手は紛れを防ぐために▲ 7九金 (第9図) と逆転の元となる筋を断つ。

【第10図は▲9七歩まで】



■ 第9図以下の指手

△ 4二銀 ▲ 9六歩 △ 同 銀 ▲ 9七歩

△ 9五歩 ▲ 9六歩 △ 同 歩 ▲ 5八金

(結果図)

【結果図は▲5八金まで】



すぐに銀を取り込むより、第10図▲9七歩と

叩いてから取る方が確実に駒得になります。

友達はなくしてもいい。これは玉の薄いメイ

ドシステムの心がけのひとつです。

結果図以下は、▲6六歩↪▲6七銀と角頭を

ケアする。対棒銀の最善策と言えるでしょう。

△9七歩成は、▲同香。
香交換は先手に▲2七香を与えてしまう。

[著者]

レベル8

東京都出身。1985年5月31日生まれ。
2010年、東京眼鏡専門学校卒業。
右玉サイト『Level.8』の元管理人。
主な著書は、『B級戦法の切り札
風車右玉戦法!』、『誰も知らない
横歩取り三四飛戦法!』、
『つめとき デラックス30!』。



メイドシステム Neo!

2020年3月7日 初版

2021年8月1日 第2版

著者 レベル8

イラスト miike

キャラクター原案 織葉紗マサヒロ

将棋盤・駒デザイン 駒職人

Creative Commons 表示-非営利 2.1 日本 License.

本書は著作権法上の保護を受けています。

本書の一部または全部を転載・複写・複製することを禁じます。

